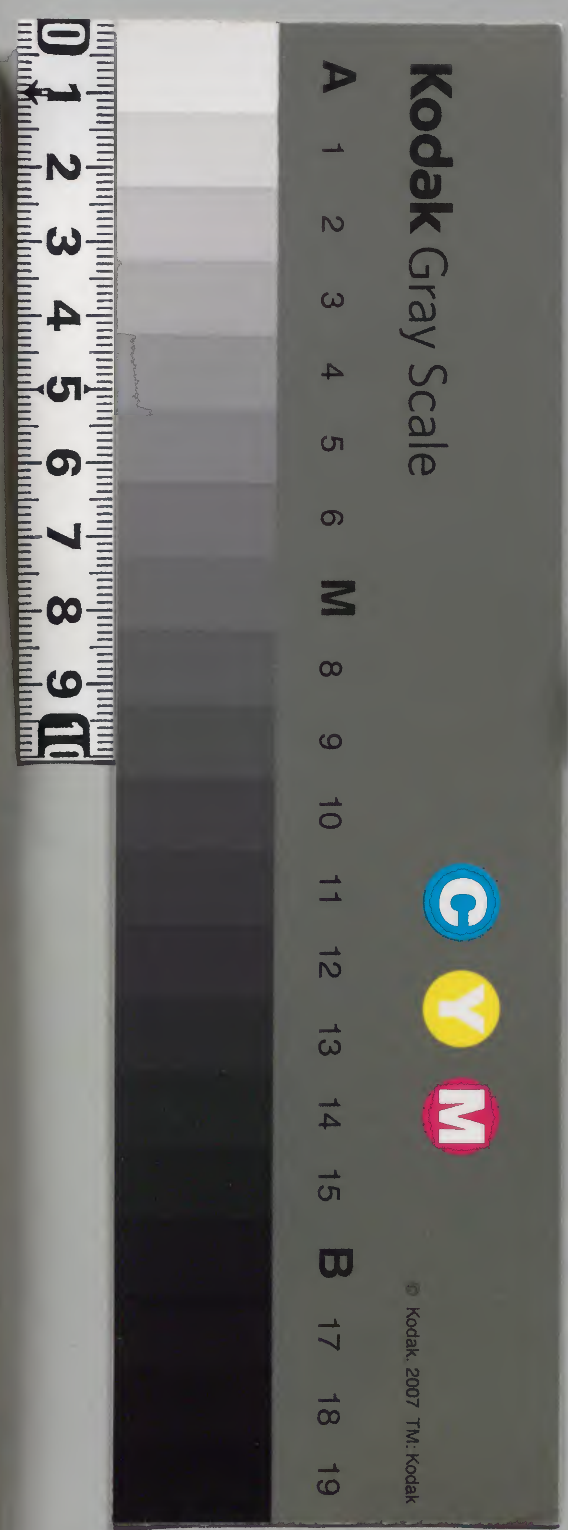


袖中抄

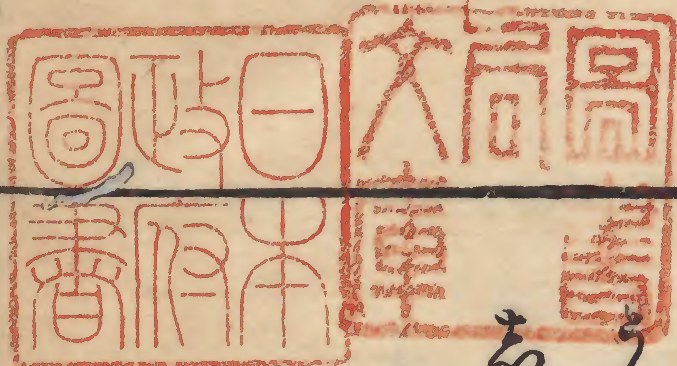
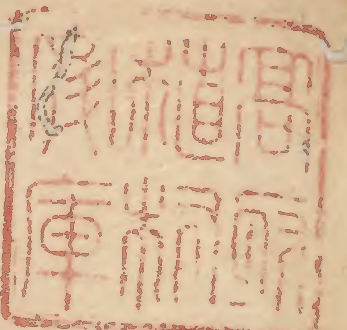
目

内閣文庫	
番號	和 7868
冊數	6 (4)
函號	201 773

内閣文庫		
函	七六八	和
架	四六八	書
冊	架	類



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり
糊などで貼り付けられている部分がめくれない箇所あり



教部省
文庫

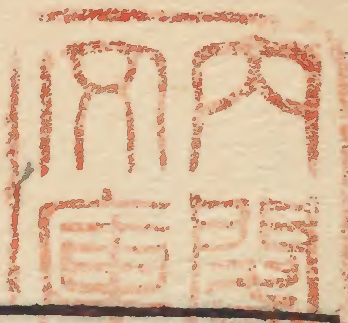
神中物才十一

目錄



あ乃むのちのま
わめまのあまのあま
ううう
あうのあま

うううあま
じううあま
あひあまのあま
ううう



袖中物語十一

あはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

あはむれりあはむれりあはむれり

よかひ業ありてはしるはかき物あつる申よひ
女乃家のましくはかき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ

かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ

りり

今業よひあつる申よひ
義叔帝業物あつる申よひ
得らぬと申よひ
あり

かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ
かき物あつる申よひ

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written vertically on the right page of the manuscript. The text is contained within a rectangular border.

Handwritten text in a cursive style, likely a letter or document, written vertically on the left page of the manuscript. The text is contained within a rectangular border.

不殺考に伴射恒元めを記述娘や
むらぬ乃と成

むらぬ乃ら此處に余の所
らうらふ事と人りし勢もや

顯胎云は考の天徳四年内表考の合よ中勢り
欽也右方也

判詞云むらぬ乃ら此處に余の所
海と云られたあやまらしつらと美とれとあや
まらあらんあつらつらと結城仍た為勝と
今東考に様式と表をぬらぬ乃とりの表

をいむらぬ乃とらあつらつらと判詞ゆえ
考言葉集考の表をぬらぬ乃とりの表
うらむらぬ乃とらあつらつらと結城し
らぬ乃らつらとあつらつらとあつらつらと
むらぬ乃らつらとあつらつらとあつらつらと
あつらつらとあつらつらとあつらつらと

鳥珠乃表乃とらあつらつらとあつらつらと

らあつらつらとあつらつらとあつらつらと

らあつらつらとあつらつらとあつらつらと

らあつらつらとあつらつらとあつらつらと

くろく乃とあつと集と同例されしうと玉
とむしや

童蒙抄云文述彦谷乃判例をひきくまじ
言約事や万葉集よ集事とくはくじし玉
とむしや玉とむし玉と和字よ順書
てはあつとあつとむし玉のふらふ
るしとむし玉と村とむし玉のふらふ
小野^{ヲノノミヤ}を殿^ノはむし玉とあつとあつとむし玉
和字の河^{カハ}はくまは彼彦谷乃判例へむし
よ付まは撰式てあつとあつと万葉集欽とき

あつとむし玉とむし玉とむし玉とあつとむし玉
和字又童蒙抄云くわつとあつとあつとむし玉
うむのふらふのあつとあつとあつとむし玉
うむ玉のふらふとあつとあつとむし玉

和字いふらふとむし玉のふらふとあつとむし玉
あつとむし玉乃月よむし玉とあつとむし玉
あつとむし玉とあつとむし玉とあつとむし玉
むし玉のむし玉のふらふとあつとむし玉
あつとむし玉とあつとむし玉とあつとむし玉
いふらふとあつとむし玉とあつとむし玉とあつとむし玉

うらうら

ゆりなみしあはれなみゆりなみゆりなみ

清くくらしき世に世に世に世に世に世に

顕彰^カ頌和^シ名^ナうらうらうらうらうらうらうら

とら清くくらしき世に世に世に世に世に

ゆりなみしあはれなみゆりなみゆりなみ

たうらうらうらうらうらうらうらうらうら

ありとありとありとありとありとありとありと

物ありとありとありとありとありとありとありと

うらうらうらうらうらうらうらうらうら

又酒ようらうらうらうらうらうらうらうら

てらなみしあはれなみゆりなみゆりなみ

とら清くくらしき世に世に世に世に世に

古きれうらうらうらうらうらうらうらうら

乃ありとありとありとありとありとありとありと

ありとありとありとありとありとありとありと

ありとありとありとありとありとありとありと

ありとありとありとありとありとありとありと

又ありとありとありとありとありとありとありと

白ひらひらくそめく一物な

はまのむねのまき乃こまこ乃むまやとあり
まこむまやとありまこむまやとありむま
まきとありまこむまやとあり

とありまこむまやとありまこむまやとあり
まこむまやとあり

凡こころん或れとありまこむまやとあり
まこむまやとありまこむまやとあり
乃とありまこむまやとあり

も不忌物をこころん

綺綺物よあめ乃あめ乃こころん
まこむまやとあり

奥義物まこむまやとありまこむまやとあり
まこむまやとありまこむまやとあり

まこむまやとありまこむまやとあり
まこむまやとありまこむまやとあり

まこむまやとありまこむまやとあり

堂のついでに

東にのりて西にのりて

私にばつたひまをす

えひとの梅のきりぎり

うきろくをまらわかれし作人

子月ごいさよふくごめひく

顕昭えつひくい薩人とてりまのあき人

ことうまのり武士の薩雄とらふも同輩とら

ゆきとらふも武弓をらふこの作人

と人とうたふらふも同輩れと郷人ははき

ぬるうらふ人かゆりさうごまとい薩人乃ら

とほららるる方葉よの長音乃ら

里よまじれとくのり概うけたよめり

とくのり概うたまふもかまのり概と月と回

列るれと月ととうまのり日概山を武白

月山と書き或南都乃人かゆり梅つさ

とゆけとそそのあは雄略天皇のりさうご

一らりまをゆりさうごゆりさうごゆり

やう枝やまゆりさうごゆりさうごゆり

事秋まのりさうごゆりさうごゆり

頭取云々々の御成さへはあらぬ御成さへは
なりけり申すは勸農乃をくく過時不^{ニテ}發
と申すことり河に流るるもの〜と云義なり
を被りけり申すはあ〜と云あつと云りて
さへ田はく〜と云のかりと云〜と云乃と云り
さ神んが〜と云申す〜と云〜と云田はは〜と云
〜と云は〜と云あ〜と云あ〜と云あ〜と云
催^{サハ}鳥^ハあ^ラふと云〜と云あ〜と云あ〜と云
秘^ヒくや〜と云ゆ〜と云〜と云の御成や〜と云
あ〜と云は〜と云あ〜と云り〜と云あ〜と云〜と云

あ〜の〜御成

い〜と云は〜と云田は〜と云稻なりと云の御成
さぬり〜と云〜と云〜と云同又もなりと云御成
よの人〜と云の御成さ〜と云〜と云御成さ〜と云
あ〜と云は〜と云〜と云〜と云農を〜と云〜と云
と云りて候御成さ〜と云の御成〜と云〜と云
か〜と云申す〜と云〜と云〜と云
〜と云ありと云は〜と云〜と云の御成〜と云〜と云
〜と云りて申す〜と云〜と云〜と云〜と云
〜と云申す〜と云の御成〜と云〜と云〜と云

乃あはれいさかしくあはれよかよとあはれいさけし
あ乃乃ち別事や伊持物候云

あ乃いさあはれいさあはれいさあはれいさあ

いさあはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あはれいさあはれいさあはれいさあ

あまのあまのりし

或書云かたき山はあまの山よりさうらふな
らむとていふはあまの山よりさうらふな

わがわがのあまのりし

うらあまのりし

あまのりし

うらあまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

理次よんあまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あまのりし

あ鳥乃まろ勢あまはくはあまの
あや一あまきりぬるく神の
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの

あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの

あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの
あまのこまのあまはらあまの

精遠集人丸書云此乃其也其津乃其也
あれとくく新由子心とまをりたる
神亦藤波の云

此乃其也其津乃其也其津乃其也
とくく新由子心とまをりたる

今乃日中紀云為審神者佐余羽天皇ニキ控御
現タケラサケ而速内宿祢於沙庭請神之命於
夏大后歸神言教々々師汝汝者唱進之義
也言右神保稱沙沈之庭也今乃日号タケ控御
人為沙庭者少有息依相兼号タケ耳

今案万葉書神系云此乃其也其津乃其也
只系と許書之也續ハ神字次乞万葉
考之如前考

袖中物才十二

目録

かまの指 も海打さ
見まけを川

もろもろの物見

いさやうの

まのしほり

わうたのあま

いほくあし

いほくあし

いほくあし

いほくあし

いほくあし

よせぬりたる人——其中よ伊勢玉ありもまた
神乃わたりてりま——海とあされし神風停揚
とよよとほくほあり人——只神乃ありことと
るまゆくの風乃まひされり——又十^ハ終をい或
ふふとて感いそすく感いそことありけい
とく川をわたりとてそらふら——又太神乃の流
糸よあり

兼曆秋合經行の終まへ

あつ代ちほく——とてあつ神乃わ
かたこととそ川乃と海とくわら

あつ神乃とく風の吹風よありと万葉
集よ神風とくきいぬれし文字よありと吹
くせよあり人あつとくも也流乃^{ヒカコト}停揚とわ
神乃あつとくも事也とくハ停揚とくわら
る事と事と地神よありとよとあり人——
とつひくわらふとつひくわらふとつひくわらふ
てねと海——とてえと海とてこのは乃人とも
あつとつわらふとつわらふとつわらふとつわらふと
つわらふとつわらふとつわらふとつわらふと
乃流とつわらふとつわらふとつわらふとつわらふと

伊勢のこほききあり

伊勢の伊勢のらあもあつ海と

ああうきうんあもあつ海と

山乃谷のこ井をみり伊せ乃

あをのなをあつあつあつ海

又日北紀乃ん張とありて諸人不知

伊せや伊勢乃うううんあつ海

あつ海のあつあつあつ海

と集り伊勢の由乃内志あををいさむ事

あつ海とあつ海とあつ海乃あつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

あつ海とあつ海とあつ海とあつ海

ひろく伊勢乃國乃あしやまてはまきすとも
非風とくはまきよこそ又溪萩とくあ
とに故書乃風借わくりてそ兼一兵と海
よおひあり萩をまつりともあつゆり人あり
故格遠乃作志小竹波命ぬハ捕親つう様
かりお溪萩竹萩とくきり溪よおひあり
むねふあまりこへ無給秋あしを伊勢乃溪
萩とくこあまてしこしひあかぬとも真る
あま又捕親萩とくあもあつんすそ海乃
こへおあり人をまつりこのへは萩一

御心実徳りの海まきくここのあひとくきり
不見補親集次あ
いほくあ萩

さたをわ乃わわのあひいひつらつてぬ
作らる海まきくあひとくあまてし
顕昭とつてぬ萩とく万葉集よ伊豆平
船とらまり船と伊豆おしり流りりいじ
あまてしあまてしあまてし
日か紀中十又云徳神天皇又年十月り
伊豆國よわらせと長十又乃船を流ら

しむらんは海よりふとれらりし時を
うらひとくめあたらし居りあし
と名を拈野と云惟聖と云後人の仇
同世一年秋八月官船拈野持て見込め
と云船乃名成あしと云あ故よはし
と云と云目二人念しく其船材を
しく塩を居しむぬ百幾乃塩と
里則法玉と賜く船を居らしむ物
拈野を塩と云一日餘燼あり則
もえらんとあわしむく天皇ふ
と

よはしと云しむと云鹽將しく
又万葉才は六つりりし伊豆平の船乃り
しとあわしむと云と云と云と云と云
家持り伊豆國ゆへ海よりあしと云
乃船不平強と伊豆船を本持と云
よめりあしと云と云と云と云と云
と云と云と云と云と云と云と云
又武彦あしと云と云と云と云
しと云と云と云と云と云と云
又言船を居らしむと云と云と云

別義少く君をい付く所順和名よき
船とりこくくぬせも神しあり
光孝天皇元年近江丹波兩國各造
船二艘

船をぬせぬ神し河舟次河船をいしる
あし船と云次河船を對しと云次
り不船船橋船よりあしはる次

奥義扱云船ありとれをいしとて
くくよ一人はくあしとて二人をい
てと云りくく船十人くあし船

わ河船云りくく船と云地ひとる河より
あり船をいし

船をいしとて二人をいしとて
と云一人をいしとて

又日中紀よ徳野乃流モロタと云海祿ありと

流より船と云と移しぬの船をわり

と云船乃大およとくく河と云ありと

二由と云河と云と云河と云とてぬ

しと云河と云と云河と云とてぬ

よ八ヤカチ柄をいしと云河と云とてぬ

とらふ川を舟おる家と那ありその那
より舟を渡せしころりもさうりうのむ乃
彼乃人ちりあるれありそのゆより那くの
その舟は流るゆありはあむし舟しり
その流るそのりも那くのりも舟あり
のありしりありありしりしりしりしり
よの人あれとある家經理たま乃あり
きた乃舟とらるる舟とらるる舟とらるる
ありと人あむしりもあむしり

とらふ川を舟おる家と那ありその那
より舟を渡せしころりもさうりうのむ乃
彼乃人ちりあるれありそのゆより那くの
その舟は流るゆありはあむし舟しり
その流るそのりも那くのりも舟あり
のありしりありありしりしりしりしり
よの人あれとある家經理たま乃あり
きた乃舟とらるる舟とらるる舟とらるる
ありと人あむしりもあむしり

月をりえのやまを越え月をりひのあらん
とらふあゝとてお船をこの月をりや
りやとあそんそくのやまをりひのあらん
とらふあゝとてお船をこの月をりや
お乃國より及らの國へあまき物と移して津奥
まのよとあるがなるうと川を山越より
あつ移して津乃國へつと川の川を山越より
しちあつ移して此乃あへおとそつとつとつと
船ととも川をりやとて船をりやとつとつと
つと船をりやとつとつとつとつとつとつと

後船はよのつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつと
家船はよのつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつと
名船はよのつとつとつとつとつとつと
のつとつとつとつとつとつとつとつと
つと船はよのつとつとつとつとつとつと
あまこのあつりおまつ移してつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
つとつとつとつとつとつとつとつとつと
右表をひきりお船をり人のつとつとつと

いさゝ水と云ふは... 俄に... 何れ...
あつ水なり

又在る云はら... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

お... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

又... 俄に... 何れ...

縁... 俄に... 何れ...

秘... 俄に... 何れ...

お... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

ま... 俄に... 何れ...

又... 俄に... 何れ...

遣... 俄に... 何れ...

と... 俄に... 何れ...

私云... 乃... 後格送席... 万葉の... 但修同... ぬへ...
私云... 乃... 後格送席... 万葉の... 但修同... ぬへ...
私云... 乃... 後格送席... 万葉の... 但修同... ぬへ...

大和... 乃... 乃...
大和... 乃... 乃...
大和... 乃... 乃...

顯... 乃... 乃...
顯... 乃... 乃...
顯... 乃... 乃...

くわんせいの事おのりてはるるの事
こゝろの事

をるるの事おのりてはるるの事

山とりの平昌乃波都平に加はるる事

と波都平の事おのりてはるるの事

顯服とりの事おのりてはるるの事

ゆらゆらとりの事おのりてはるるの事

うらやまの事おのりてはるるの事

くわんせいの事おのりてはるるの事

よの事おのりてはるるの事

山の事おのりてはるるの事

ゆらゆらとりの事おのりてはるるの事

うらやまの事おのりてはるるの事

くわんせいの事おのりてはるるの事

よの事おのりてはるるの事

山の事おのりてはるるの事

ゆらゆらとりの事おのりてはるるの事

うらやまの事おのりてはるるの事

くわんせいの事おのりてはるるの事

よの事おのりてはるるの事

音重書物云 三指云々

此の山は... 山と云ふ

山と云ふ... 時孫を... 映水則舞魏武帝時南方... 今人取大鏡看其前山鶴鑿取而舞不正... 又と云ふ... くの雄乃と云ふ尾の... 乃と云ふ...

奥義抄云... 此の山は... 奥義抄云云... 此の山は... 此の山は...

此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は... 此の山は...

事や又比山をのうらんか船の跡と云事一の事
まらまらぬなり

六帖云荆實王候一宿懸鏡以昭之智觀
至平年
新乃鳴而舞之

わりの浦乃志海

わのくともわのせうの海さうわり

志海くまのく船をくをせり

願昭云おと系た京地乃を移しくは行つと

年まうてはまるとおあゆのく二年乃後始

あゆのくく行事の不審らりのくはあや或

人云明石の浦より島よりが舟着て陸地云

ありら船こそわりの浦よりいへんれ或人

清海崎の大島より一國や船のまはり船を

まらまらぬなり

今も果はありのれさあいららまらぬなり

まらまらぬなり

わらまらぬなり

まらまらぬなり

まらまらぬなり

万葉集云

此の如く梅のてはせしり侍佐角と
 比治^{ヒキ}奇のりて成るもかたけのり
 顕昭云ひらにのりて八幡庵よありて
 と成るに成るもかたけのり
 倍流よもいひのりて成るも
 考孫姫云
 あつしはゆきとてのりて成るも
 獨^{ヒキ}音のりて成るもかたけのり
 又忠見集云此は時躬^ニ直^ツり^ニ厨^ツ子^ニ下^ニ
 さらしは例ありて年来は乃由より

ちひいのみい
 古秋のりて成るもかたけのり
 こと或人のりて成るもかたけのり
 とんよるもかたけのりて成るも
 乃るたよもかたけのりて成るも
 なるを
 ちひいのみい

玉乃よの志海あさり 志と見

しんせうしん 井てれ玉水

とくくあぬり あさりよあぬよ

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

おぢあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

袖中物才十三

ひまめれん

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

顯昭云 乞へ神系乃ひまめれのあさりよあぬり

神系のあれ中のひまめれあさりよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

ひまめれあさりよあぬしん 志あぬよあぬり

あさりよあぬしん 志あぬよあぬり

携腰川のふりあは

あはれなる川は
うらりひらきぬくそめり
顯姫とあはれと神楽の
あはれなる川は
あはれなる川は
あはれなる川は
あはれなる川は

はらりひらきぬくそめり

はらりひらきぬくそめり
はらりひらきぬくそめり
はらりひらきぬくそめり
はらりひらきぬくそめり
はらりひらきぬくそめり

はらりひらきぬくそめり

はらりひらきぬくそめり

はらりひらきぬくそめり

はらりひらきぬくそめり

みことあはれいとおもひて

願昭えらうのさあつてはくはるるたれ

あよ石とら^いあよ布袋乃社と云神とて

きよらるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

あつてはくはるるさあつてはくはるる

を略しつちのいふにやむるはむらじの
乃事こしを種をよむるにむらじのいふに
權馬^{サハ}系^ウ一昔家つらふにむらじのいふに
つちのいふに

あつちのいふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

いふにむらじのいふに

ゆふふ人なるわまういそくわさひんがみよ
りしうきかうらありき海とく神くめくたう
りうがまふ人ありうがをそくあつらん
考万葉集者鄙人姓名未詳也于時狝堂
乃男女衆集野趣是會集之中有鄙人
支那容姿端正秀お衆法乃彼鄙人之意
孫増愛妻愛之情而作世奇贊嘆弟自也
私云世信乃月よ物をわあくゆいせきあを
おくしひらあつこのあそひんがみり
あやうきわらわ

おろしとてお

しん乃おれまふくおれあそこの
花をまふくしあうらう後物ふの記
顕昭云おれしん乃乃徳をよあ
ふ万葉集おれ乃あけり大橋を為
を後り
てんこののりる船乃為しんがみれ
しんがみりしんがみりせん
きしあうらうあそく後りしんがみれ
わあそくしんがみりしんがみり

秋乃野にふかき雪のふりあはるるの雪乃

ゆきいふゆきの花のちりきり

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

万葉集の由乃字を書きまはるるゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

ゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふゆきいふ

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 12 vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, characteristic of the cursive style. The text appears to be a formal document or a letter, possibly related to the historical context of the National Archives of Japan.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It consists of approximately 12 vertical columns of text, reading from right to left. The script is highly stylized and consistent with the cursive style seen on the adjacent page. The text is contained within a rectangular border.

いさぎよき事なればいさぎよき事
あひまほしき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事
いさぎよき事なればいさぎよき事

たろきんはあ

あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ

日記の六の流るるまうらあうら流るるまうら
顕明云古今中外を大なる流るるまうら
よむがるるまうらあうらあうらあうらあうら
つあうらあうらあうらあうらあうらあうら

考漢日本紀云天保十一年正月十六日天
皇御小宴殿宴群臣酒酣奏也言曰回舞
早更念小童主女踊之又賜宴天下有佐
人并法外史生於世六位以下人亦勤
之云

あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ
あうきんはあ

此のまゝのあゝの流よまて

あつたて端あゝのわあゝの

あゝのあゝの

あゝの神ニ今ニ食ニ新ニ嘗ニ身ニ余ニあゝの

社ニ系ニはニのニ庭ニ勤ニとニくニたニ名ニ美ニ乃ニ傍ニ出ニの

勤ニをニとニくニはニつニりニあニはニむニはニむニをニ親ニり

しニよニせニくニあニはニしニまニはニ流ニあニのニ傍ニ也ニとニく

私ニあニのニ流ニ身ニをニ難ニ知ニ但ニ勤ニはニよニせニくニはニ

しニまニはニむニあニとニくニはニ事ニつニくニはニくニ流ニ目ニむ

紀ニよニはニ流ニ入ニまニつニあニらニりニのニ流ニまニくニあニとニく

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

らニめニあニらニりニあニはニむニあニのニあニはニむニはニ流ニつニあニと

不知圖

屋戸なる井く乃をすのひのひ
をすのひのひのひのひのひ

顯昭玄の徳を伴勢物終をむし
をすのひのひのひのひのひ
けきとすのひのひのひのひ
山嶽よりなる人なる人なる
てあひのひのひのひのひのひ
乃人あ徳をむのひのひのひ
玉乃井とすのひのひのひのひ
をすのひのひのひのひのひ

乃をすのひのひのひのひ
今葉よじあひのひのひのひ
うあひのひのひのひのひ
今葉よじあひのひのひのひ
じう肉を言人なる人なる
をすのひのひのひのひのひ
をすのひのひのひのひのひ
あひのひのひのひのひのひ
をすのひのひのひのひのひ
かひのひのひのひのひのひ

あ乃よお〜あんと

わさのり成之勢一押靡トとくあめ

あ乃よお〜あんと

顕那えあ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

あ乃よお〜あんと

Handwritten text in a cursive script, likely a form of Japanese calligraphy (sōsho). The text is arranged in approximately 10 vertical columns, reading from right to left. The characters are fluid and interconnected, characteristic of the cursive style.

Handwritten text in a cursive script, similar to the left page. It features several vertical columns of text. Notably, there are some characters written in a more formal or printed style (kuzushiji) interspersed with the cursive, such as the characters for '額' (forehead) and '書' (writing) in the middle section. The overall style is elegant and expressive.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the right page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left across the page. The characters are dark and fluid, characteristic of a historical cursive style.

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or letter, written on the left page of an open book. The text is arranged in approximately 12 horizontal lines, flowing from right to left across the page. The characters are dark and fluid, characteristic of a historical cursive style.

伊豫乃

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

袖中物并寸

あへあらし

あへあらしふあらしひさし馬下此

あへあらしふあらしひさし馬下此

あへあらしふあらしひさし馬下此

あへあらしふあらしひさし馬下此

袖而小者也

袖へ似撥而酢出江南矣或醫所申侍橙ハ

宅耕及夕ウトヨ訓おりたりあし搗皮ハ

不用也物志搗をらんとく橙を取と云ハ

とてしむるはれは終らぬものありしは
よきものなりきまはるるしむるはれは
よきものなりきまはるるしむるはれは
よきものなりきまはるるしむるはれは
よきものなりきまはるるしむるはれは

物と鳥乃ら終るものありしは終る
今のものなりきまはるるしむるはれは
ものありしは漢とる事とるは漢とる
東夷の終るものありしは終る
大宰府よはるる大宰の種材ありしは

終るものありしは終るものありしは
ものありしは漢とる事とるは漢とる
東夷の終るものありしは終る
大宰府よはるる大宰の種材ありしは
ものありしは漢とる事とるは漢とる
東夷の終るものありしは終る
大宰府よはるる大宰の種材ありしは
ものありしは漢とる事とるは漢とる
東夷の終るものありしは終る
大宰府よはるる大宰の種材ありしは

かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
ありあつたにあらざらん
と或はよのちの事なり
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん

かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん
かゝるにあらざらん

流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて
流るる水は流るる水とて流るる水とて

て中の中田経次郎 兼鶴思子 筑中鳴
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて
とつり而忠義のめはるる水とて流るる水とて

めりてあわゆる日記に物人玉の平箱をよそ
 まつふとて事のお終りよ其の海やとゆふ
 丁考其文也徳前よ玉澤白玉子箱事其
 こと作者お後を著し事部思後を玉子
 箱進上事もつとてかいついよも玉子
 箱ともいふゆへに玉子とていふ事有
 後を
 玉子とていふ事
 玉子の事とていふ事とていふ事
 玉子の事とていふ事とていふ事

顕昭云たりとて事作勢を部文の風俗
 玉の都を玉とていふ日記云公の玉澤云
 真坂樹八玉藏問曰玉藏者何物乎
 是坂樹玉の貴之名也用玉坂樹刺玉以
 為神之本故謂之藏玉又万葉云
 神玉の玉たりとて事作勢を部文の風俗
 玉の都を玉とていふ日記云公の玉澤云
 真坂樹八玉藏問曰玉藏者何物乎
 是坂樹玉の貴之名也用玉坂樹刺玉以
 為神之本故謂之藏玉又万葉云
 神玉の玉たりとて事作勢を部文の風俗
 玉の都を玉とていふ日記云公の玉澤云
 真坂樹八玉藏問曰玉藏者何物乎
 是坂樹玉の貴之名也用玉坂樹刺玉以
 為神之本故謂之藏玉又万葉云
 神玉の玉たりとて事作勢を部文の風俗

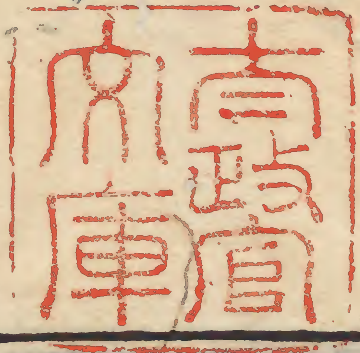
九年三月皇后親為神主於是審神名曰
今不名而更後有言平乃對曰於日向搗
小門之水庭取居而水葉雅之山注云神於水中葉木甚翠摘之以此葉盛出居之居神名表
筒男中筒男庭筒男神有之時得神治隨
數而冬也然別以神本在鏡前小戸即神
切皇后初遷居於攝津田書江年
私云案云此之神代乃神をわくひと神と
下中凡万葉集長文云住者乃鬼人神と
よあり但今の文ありありとてよ事れ
為とわつらるる記河時を括平

又日記云現人之神わくひと神代神名
自稱之号也治子之在系約長類曰此事
可抄矣曾言也公望案借名日記可謂常
之号又云夫神あまの原乃地神也乃人神
曰鬼隱者之神也鬼物隱或鬼人死神魂也而不欲顯故以稱之
私云於系亮行帶云住居神生國基云住者
本之社也中田社ハ玉津嶋明神即夜通姫之
後よいつくまは仍好私云於治云
私云之社事相付日記云又安治云云
高深夜通姫乃右ハ女ひる多ハ妻不別之

奥義扱云わら人非ち地祇也曲物よら惣
て地祇をわららひと神と名つきたらら
今云らねらわららるる相あら又目如死
と非地祇之非奉現人非如^ラ現人非も天よ
のあららるああららららららる
ゆこのたゆい

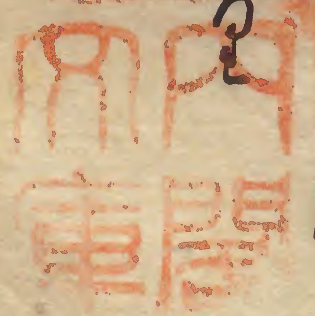
そら神を人あたらあたらあたら
ゆこのたゆいゆこのたゆい
歌如を^キゆこのたゆいゆこのたゆい
まゆこのたゆいゆこのたゆい

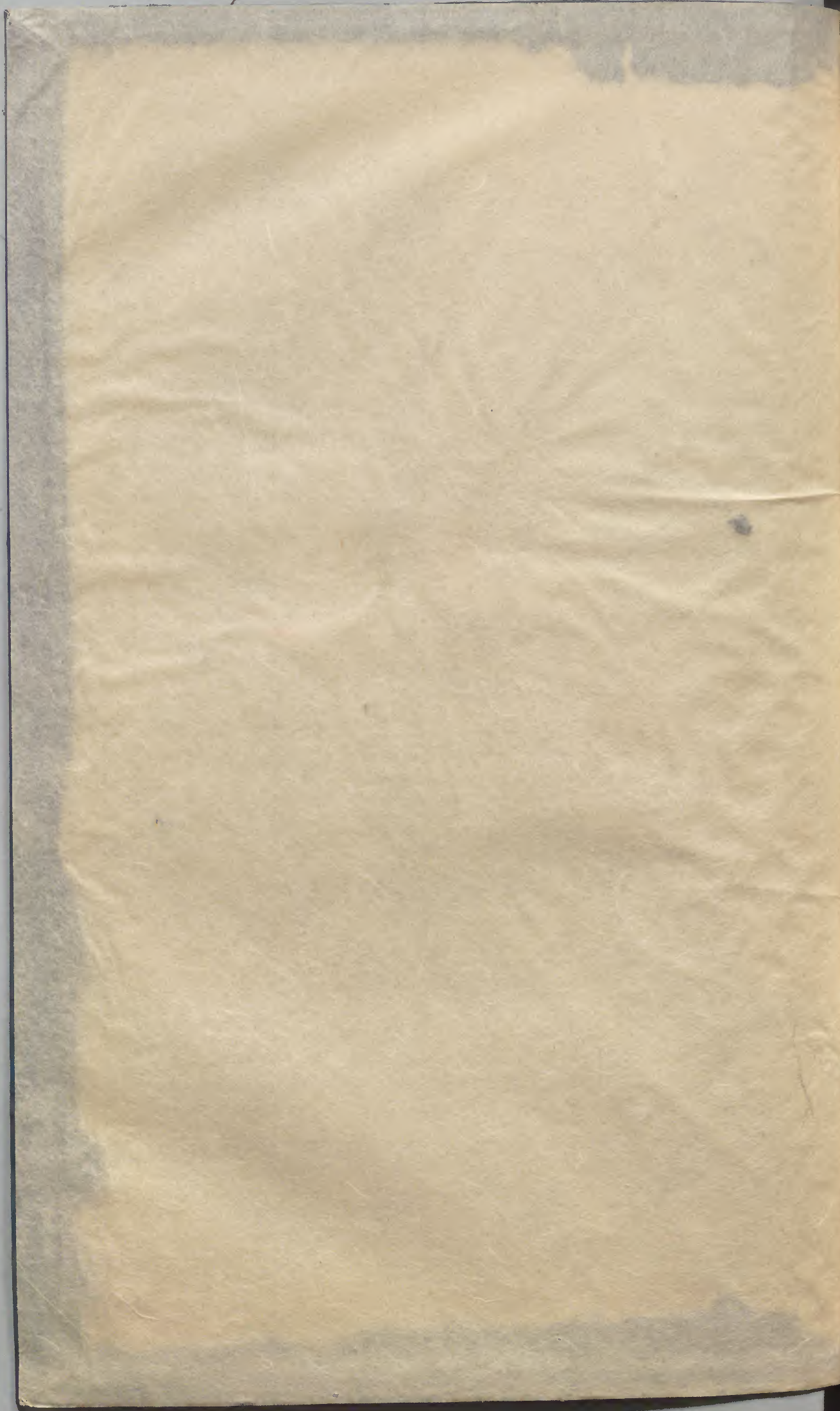
歌一のゆこのたゆいゆこのたゆい
たらたらゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい
ゆこのたゆいゆこのたゆいゆこのたゆい



Handwritten text in cursive style (sōsho) on the right page, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left. It appears to be a list or a series of entries, possibly related to a collection or library, as suggested by the seal above.

Handwritten text in cursive style (sōsho) on the left page, enclosed in a rectangular border. The text is written vertically from right to left, continuing the style of the right page.





Handwritten text in a cursive script, likely Japanese, is visible within a rectangular border on the right page. The text is arranged in several vertical columns, reading from right to left. A prominent red square seal is stamped over the text in the upper right quadrant of the page. The seal contains the characters "文庫印" (Bunko In) in seal script, indicating it is a library stamp. There are also some faint, illegible markings at the top of the page.

